

僕と相棒

早くなる心臓

雲と雲との隙間から日光も差し始めた
on your mark
お願いします」

西部中・3 藤田 翔蒼

いつも通りの音楽

いつも通りの音楽

相棒のスパイクの手入れ

ストレッチ

朝四時四十五分のアラーム

いつもなら止めて一度寝

でも今日は違う

目標の全国大会がかかっている

すぐに着替え

体を起こすためにウォーキング

ここでもいつも通りの音楽

でも今日は何か違う

空は晴れているのに

心は曇っている

いつも以上の

緊張と

不安

でもほんの少し

相棒と早く走りたい

という気持ちもある

会場に行くまでも
いつも通りの音楽
音楽のリズムより

会場に着きアツプ開始
頭の中ではいつも通りの音楽

いつも通りのアップ

でと運悪くいつも以上に気温が高い

雲もほとんどない

なのに心は雨が降り始めている

でも

相棒ともつといい状態で

走れるようになないと！」

という前向きな気持ちが

朝より大きい

招集が始まリスタート位置の方へ

ここでやつと

相棒と合体

流しを一本

相棒は飛び跳ねているようだつた

体も動く

なのに心は土砂降り

そんな僕たちを気にかけず

時間は迫つてくる

スタート直前父からの一言

絶対切れる」

その言葉で一気に心の雨が止み

トラックに札をし
フラフラ歩く

八分五十一秒で全国大会出場を決めた

一斉にスタート

目標のペースで入りいつもと同じように

いつも通りの音楽の頭の中

二〇〇〇mまではこの余裕があり

リラックスクしていけた

急に音楽が消えたラスト一〇〇〇m

暑すぎて何も考えることができない

ヤバイ……

無理だ……

という言葉が

音楽に変わって流れてくる

が、それと同時に

相棒の声

まだ行ける！僕が助ける！

という言葉でまだ行けると思えた

相棒に助けられた

タイムを見ながら

相棒と並走

ラスト一周必死にもがき

両手を挙げてゴール

スタンドからコーチに

よくやつた！」

と言われ大きな声で
ありがとうございます！」

スタート位置に戻り

父ともハイタッチ

座り込んでしばらく

相棒を持ち上げた

トラックから出ると多くの人に

おめでとう！」

と言つてもらえた

でも僕はすぐに

家族と見にきてくれた友達のところへ

ありがとう！」

と言いに行つた

帰りの車

またいつも通りの音楽

相棒のバイクの手入れ

ストレッチ

でも今日は

いつも通りの音楽を聞き

相棒を抱きながら

眠りについた

僕の心は満点の星空だった